

ネイパル冬物語

1 事業のねらい

施設での体験活動や学習指導を通してより多くの子どもに均しく体験や学習の機会を保障し、生活リズムの定着と豊かな心やたくましく未来を切り開く心を育む。

2 事業の概要

- 期日 R2.12.26(土)~28(月) 2泊3日
- 対象 小学3年生~小学6年生
- 人数 44名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 足寄町郵便局
日本パステルホープアート協会 パステル和アート

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12/26 (土)							開 会	入 室	な か よ く な ら う	学 習 目 標	夕 食	学 習 タ イ ム	振 返	入 浴 自 由 交 流	就 寝	
12/27 (日)	起 床	朝 食	準 備	読 書	学 習 タ イ ム	班 対 抗 大 運 動 会	昼 食	学 習 タ イ ム	寒 中 見 舞 い を か こ う	学 習 タ イ ム	夕 食	学 習 タ イ ム	振 返	入 浴 自 由 交 流	就 寝	
12/28 (月)	起 床	朝 食	清 掃	読 書	工 作 タ イ ム	振 返	閉 会									

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 「目標の設定」「振り返り」を取り入れた活動
 - ・全ての活動で「目標の設定」と「振り返り」の時間を確保し、目標を持って行動できるようにすることで、自主的な行動を促すとともに、意欲的に行動しようとする意識を高められるようにした。
- 主体的な活動を促す講師の活用
 - ・足寄町郵便局職員や日本パステルホープアート協会会員などの専門的な知識をもった外部講師を活用することで、興味・関心を高め、主体的に活動できるようにした。



パステルアートで寒中見舞い



自ら目標をたてて学習

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・「学校以外での体験や学習も楽しいと感じたか」という項目に「感じた」「少し感じた」と肯定的に回答したのは89%
- 参加者の声
 - ・学習タイムでたてていた計画より、勉強を進められたので、良かったです。
 - ・協力して、ペーパータワーを作ることで、チームワークや相談することのいいところに気がつけた。
 - ・学んだことは、「くるしくてもがんばったら、さいごはたのしくなる」ということです。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートにおいて、計画的に生活することができてよかったとの声が多かったことから、目標を設定し事後に振り返ることによって楽しく取り組むことにより、自主性を高めることができたと考えられる。
- 学生ボランティアの活用や地域の関係機関との連携を図り、指導体制を充実させることで、学習の時間を一層効果的に行う必要がある。



企画のポイント

「目標の設定」と「振り返り」の時間を確保し、意欲的な行動を促すプログラム

週末等学習サポート

1 事業のねらい

学校以外での学習機会を提供することで、学習環境の整備及び家庭学習の定着を図り、基本的な生活習慣の確立につなげる。

2 事業の概要

- 期日 R2.12.6(日)～R3.3.21(日) 日曜日開催
- 対象 厚岸町内の中学生
- 人数 延べ 118 名 (全 17 回)
- 場所 ネイパル厚岸
- 共催 厚岸町教育委員会

3 プログラム

○授業日

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
12月	6(日)	13(日)	20(日)	27(日)	—
1月	—	9(土) 10(日)	17(日)	24(日)	31(日)
2月	7(日)	13(土) 14(日)	21(日)	28(日)	—
3月	7(日)	14(日)	21(日)	—	—

○基本時程

	中1	中2	中3
13:30～14:30	数学	演習	英語
14:35～15:35	英語	数学	演習
15:55～16:55	演習	英語	数学

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 参加しやすい体制の構築
 - ・ 厚岸町教育委員会との共催事業とすることで、学校教育との連携を図り、対象者に情報が行き届くようにした。
- 実態把握ときめ細やかな指導
 - ・ 簡易テストや希望進路調査の実施により、個々の課題を把握し個別の学習指導を行うことで、参加者の学習意欲の向上に努めた。
- 学習支援体制の充実
 - ・ 学習支援を行う職員を、教科別・担当学年別に配置することで、長期間における計画的な学習支援を行えるようにした。

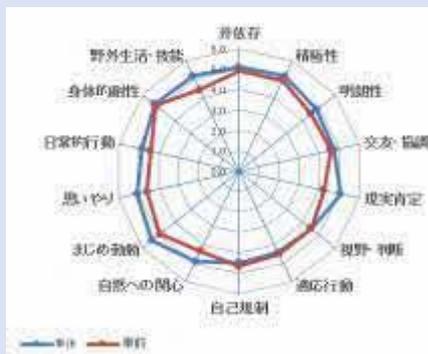


個々の課題に合わせた学習指導



複数の職員による指導体制

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・ 「自己規制」「適応行動」では若干の減少が見られたが、その他 11 項目では向上が見られた。
- 参加者の声
 - ・ 集中して勉強することができ、家庭学習の時間も増えた。
 - ・ 成績が上がったので参加して良かった

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 自己の学習状況を把握しながら学習課題を見出し、計画的な学習プログラムに沿った学習活動に取り組むなどしたことにより、参加者の多くが家庭での学習時間が増加したものと考えられる。
- 関係機関との連携や、地域や学生ボランティアの募集を行うなど、地域の教育力を活用し、「地域の子どもたちを地域で育てる」気運の醸成に努める必要がある。



企画のポイント

個々の学習習慣の定着と、継続的な実施を見据えた支援体制の確立